



年 組 名前

道新 ワークシート

ネット呼び掛けに手応え／統計的には誤差の範囲

別姓認めず「合憲」 4人に「×」票多く

衆院選と同時に実施された国民

審査で、対象の最高裁判官11人のうち、夫婦別姓を認めない法の規定を「合憲」とした4人に、罷免を求める「×」の票が多く投じられた。インターネット上で×の投票を呼び掛けた人は「国民の意思を示せた」と手応えを口にしているが、「統計的に大きな差とは言えない」と分析する専門家もいる。

4人は裁判官出身の深山卓也、林道晴両氏と、行政官出身の岡村和美氏、外交官出身の長嶺安政氏。全国で約5700万票が投じられたうち、4人はいずれも×が400万票超、7%台だった。

一方、夫婦別姓を認めない規定を「違憲」とした宇賀克也、三浦守、草野耕一の3氏への×は300万票台で、この規定の判断後に就任した他の裁判官4人はさらに少なかった。

「国民審査の覚え方は、左から『長岡村の林は深い』だそうです。東京のソフトウェア会社「サイボウズ」社長青野慶久さん(50)は10月、×を付けてもらいたい裁判官4人の頭文字を並べた覚え方と、投票用紙に×を付けたイメージ画像をツイッターに投稿した。拡散され、130万回以上表示された

という。

結婚で戸籍を妻の姓に変え、旧姓で仕事を続ける青野さんは、裁判を起こすなどして夫婦別姓の導入に取り組んできた。衆院選では後ろ向きな候補者の落選を目指す特設サイト「ヤシノミ作戦」を開き、初めて国民審査の投票を呼び掛けた。「誤差レベルの違いしか出ないと思っていたが、間違いなく4人の×が多い。数十万票単位で動いた可能性がある。こんな人の行動が変わるとは」と驚く。

最高裁国民審査

今回の結果に「そこまで大きな差とは言えない」と語るのは「データ・リテラシーの鍛え方」などの著作がある長野県立大の田村秀教授(公共政策)。都道府県ごとでは、東京都と沖縄県で4人への×が有意に多かったものの、他の45道府県は「ほとんど誤差の範囲内と言え」と指摘する。「全ての有権者が一つの裁判を指標に投票するわけではなく、是非を決めつけるのは早計ではないか」との見方を示した。

2001～06年に最高裁裁判官を務めた弁護士浜田邦夫さん(85)は「国民審査は異常事態に備えた制度で、あまりにもひどい裁判官は国民が直接チェックできる、という体制に意味がある。特定の事件についての判断だけでやめさせるのは問題だ」との考えだ。

ただ「誰の×が多いか、裁判官同士で気にしていた」と自身の経験を振り返り「今回×が多かった4人の裁判官もそれぞれ結果を受け止めているのでは」と推し量る。「裁判官は証拠と良心に従うものだから、審査結果を受けて判断が変わるということはないが、世論の動向に気を使うことになるのではないかと話している。

国民審査の覚え方は、左から「長岡村の林は深い」だそうです。

#ヤシノミ作戦 yashino.me で #選択的夫婦別姓 と #同性婚 を実現しよう！

別姓裁判で「現行制度は違憲ではない」と合憲判決を下したヤシノミ裁判官には「x」をお願いします。

×				×	×				×
長嶺	安浪	渡辺	草野	三浦	岡村	林道	堺徹	宇賀	岡正
安政	亮介	恵理子	耕一	守	和美	道晴		克也	晶
									卓也

「サイボウズ」社長青野慶久さんが国民審査の投票を呼び掛けた投稿(ツイッターより)

2021年11月7日(日) 朝刊 全道版 2ページ (記事は一部再編集しています)

- ① 今回の国民審査で、特定の4人に「×」が多くつけられた理由を、記事を参考に書きなさい。
- ② 今回の国民審査で、「×」の票が多く投じられたのは、どのような働きかけがあったからか。記事を参考に書きなさい。